

●涙道の手術を体験

■涙道（るいどう）とは：

涙道とは涙の通り道のことです。

涙は通常、両目の目頭側の瞼（まぶた）の内側にある小さな穴、涙点から涙小管（るいしょうかん）に入り、鼻の両側の涙嚢（るいのう）を通過して、鼻涙管（びるいかん）を通過して鼻腔に流れます。

■流涙（りゅうるい）とは：

涙の主な役割は眼球を保護することですが、涙道が何らかの原因で狭くなったり詰まったりしてしまうと、いつも泣いているように涙があふれてしまいます（涙道閉塞）。

■眼科受診までの経緯：

およそ半年前より目に涙がにじむようになり、よくハンカチで目を拭くようになりました。初めは気にも留めていませんでしたが、車の運転中に目じりから涙がこぼれることがあり、これはおかしいと思うようになりました。

昨年白内障の手術を受け、現在も定期通院中のため、“流涙”を訴えたところ、「涙道通水検査」をおこないました。この検査は涙点から生理食塩水を流して鼻まで通っているかを確認するものです。左はすぐに鼻に生理食塩水が流れてきましたが、右は流れて来ませんでした。そこで涙道の狭窄が疑われるということで、涙道の専門医を紹介してもらいました。

■涙道専門医受診：

基本的な視力検査と涙道通水検査を行い、加齢による涙道狭窄と診断されました。後日手術です。

手術：

- ①最初に笑気麻酔を吸入します。数回吸入すると意識が薄れていきます。先生の声は聞こえます。
- ②目頭付近の皮膚に局所麻酔を注射します。「チクン」と感じますが痛くありません。
- ③涙道に内視鏡を入れ、狭い部分を拡げて専用の軟らかいチューブを留置します。

およそ10分位で終わりました。

点眼薬、内服薬を受け取り、眼帯を付けて片目状態での帰宅です。階段はゆっくり歩きました。

※上記内容は眼科康誠会：井上 康先生監修の「流涙って？」から引用しました。